

第 69 号議案一般会計補正（第 3 号）、中の坪公園機関車移設補修工事費関係について、賛成の討論をいたします。

昨今、全国の地方自治体は元気なまちづくりの一つとしてさらなる少子・高齢化に向け、その代替策として老若男女、多くの人が集う活気あるまちづくりに一生懸命であります。その基本的な考え方は個性あるまちづくりであります。何の特色もない町にはいろんな意味で人は感慨も湧かず寄りつきません。よその町にない、その町独自の個性、それは町の歴史を物語る史跡や文化財そのものが個性であり、それを活かした物語も町の個性だと多くの知識人は言っております。

御承知のとおり、我が志免町の歴史は農業と石炭で繁栄してきた町であります。特に旧国鉄志免鉱業所は我が国唯一の一貫した国営炭鉱であり、国鉄の炭鉱になった戦後では昭和 30 年代では町の一般会計の歳入の実に 50% 若をこの志免鉱業所関連で占めていたわけでありまして。まさに我が町は志免鉱業所の石炭によって繁栄してきた町であります。また、国鉄の炭鉱として全国の S L 機関車の 8 割に燃料として石炭を供給していたわけで、映像や写真で見る往年の S L 機関車が黒煙を上げている、あの走っている雄姿は志免の石炭で走っている、このことも町の誇りであります。そして、当然、今ある志免の S L 機関車も志免の石炭で走っていたわけでありまして。

また、志免の S L 機関車 2961 号にも誕生から引退まで走り続けた歴史と物語があるわけで、長崎原爆投下時は長崎大浦機関庫に配属中だった等々、この機関車の歴史、物語も私たちの財産であり、宝物であります。

そして、引退後、志免町に請い請われて、今の地に設置されたわけでありまして。福岡都市圏に残っている S L 機関車は福岡市の貝塚公園と、お隣の須恵町だけあります。特に志免町は町の繁栄を担ってくれた国鉄の炭鉱だからこそ、その歴史を物語る S L 機関車は他の自治体と違って絶対に解体などできません。その歴史の恩に報いる意味でも大事に保存し、活用していかなければ全国の笑いものになります。

福岡県内の自治体による S L 機関車の保存例として一番新しい事例を紹介いたしますが、昨年の読売新聞にも掲載されました芦屋町の事例があります。これが志免町とよく似た事例なのであります。芦屋町は志免町同様、現在、鉄道はありません。戦前、遠賀川から芦屋間 6.1 キロに国鉄が列車を走らせていました。現在、展示されている S L は高浜町公園に 30 年以上展示され、腐食や錆がひどくなっていました。先ほど牛房議員がこの S L はここを走っていないと、志免町の S L 同様この芦屋町の S L もこの区間を走っていたわけではありませんが、町、そして町民がかつて町内に列車が走っていた記憶をとどめようとの思いと、塗り直すだけではなく完全に修復し、産業遺産として末永く残したいとの思いから修復をされ、今では町民に愛されていると新聞に掲載されていました。

財政面やいろんな意味でよく似た芦屋町の保存への熱い考えと、保存を実現した姿、一方芦屋町より関係が深い国鉄の炭鉱で繁栄した志免町なのに解体となれ

ば、この両町の差を世間はどう評価するでしょうか。

また、40年近くあの場で保育園児や小学生に愛され、親しまれたSL機関車です。ものの見方は個々それぞれあるでしょう。しかし、そこにSLがあることを知って通学をし、学んできた子どもたちはどうこれを感じるでしょうか。

次に、今まさに日本は観光立国を国策としていろいろな施策を展開しております。JR九州の七つ星列車の運行、そしてそれを迎える各自治体、地域のあの歓迎の盛り上がり、あれこそ地域おこし、まちづくりの原点であります。お隣の須恵町では町と商工会がタイアップしJR九州が展開している駅長お勧めのJRウォーキングのコースを設定し、毎年2回、多くのファンが須恵町を訪れております。皿山公園のSL機関車を見るコースも設定されています。今後は、香椎線にSL機関車を走らせようとの動きもあります。

今回、志免のSL機関車の補修、移転は志免町商工会の強い要請でもあります。このSL機関車を本来設置されるべき商工会の前の鉄道公園に移設し、国鉄志免鉱業所関連の遺跡と一体としたテーマパークとして商工の活性、地域の活性に取り組むとの理事会全員の賛同のもと、熱い思いを持って町長に補修、移転の要請がなされました。そのシミュレーションも語られたようですが、町の繁栄と活性の一端を担う商工会のこの強い思いを聞き入れず、簡単に解体を議会が決定してよいものでしょうか。ましてや今日の町長の熱い思いと所管課の思い、あの熱い思いから出てきたこの予算の財源は地域振興基金を使うわけで、まさに町も地域振興に対する熱い思いからの提案を議会が理解もせず安易に解体をしてよいものでしょうか。

「今まで何もやらなかった」とか「今まで何をやっていたのか」という観点から、このことを否とする者は、ものの考え方のすり違いではないでしょうか。これからどうしていくかということを実際に考えるべきではないでしょうか。

先ほどの芦屋町の考え方のおり、歴史を語る、地域を語る、形あるものを残すことこそ大事なことで、壊してしまえばゼロであります。このことを思うとき、志免町を走っていた勝田線の廃止を思い浮かべます。当時の国鉄の対応にも問題がありましたが、あの勝田線が存続していれば志免町の様相は大きく変わっていたと思います。民営化されたJP九州の幹部の方が、今あの勝田線が残っていれば確実に九州有数のドル箱路線となっていたらろうし、福岡都市圏の周回路線も夢ではなかったと語られました。

近年、議会内でも福岡空港から志免まで地下鉄の延長を望む声は大変多いわけですが、当時の議会の否決が廃線を認めたわけで、将来への夢の実現やまちづくりには、目先のコスト意識だけではなく、先見の目で議会もしっかり判断しなければなりません。

今回の審議は中の坪公園の整備工事との関連から期間が限定される工事なので、臨時会として本件だけの議案提案となっているわけですが、ほとんどの町民はSL

機関車の保存か解体かの議論が議会でなされていることすら知らない。まして子どもたちは一切知らない状況の中で判断をするわけでありまして、ある町民は解体か保存かの議論すら町民が知らない状況下での議決はあってはならない。特に形ある貴重な遺産の保存か解体かに関するものであり、何も知らされていないことに強い不信感を表明された住民もおられます。このような背景を十分甘受した上で私たち議員は責任ある意思表示をしなければなりません。

重ねて申し上げますが、今回のSL機関車補修、移転は先ほどの町長の話が聞かれたと思いますが、町長と町当局が熱い思いを持ってコスト面でも相当努力をして提案してきた施策でもあり、同時に、商工会の熱い思いでもあります。その熱い思いを理解し、活気あるまちづくり、商工会活性に大いに期待をすべきではないでしょうか。

また、将来の志免町を担う子どもたち、郷土愛を育む教育面からも、また将来のまちづくりの数少ない貴重な財産として残してあげることが今の私たちに与えられた責務であると思います。

私も全国でいろんな方々のお話を伺い、またお話をさせていただきますが、形あるものが残っているからこそ郷土愛につながり、子どもたちの誇りになっていくわけでありまして、そこに何もなければただ単なる卓上の議論であり、何の郷土愛にも結びつかない、そのような話もしっかりいただきました。将来、「あの機関車があったなら」そんな思いを子どもたちに抱かせないようにぜひ皆さんの温かい御判断をもって賛成していただきますことを心からお願いをいたします。

委員会審査では否決となりました。仮に今回の予算上の上程で否決となっても、その議論を伺っていると、これまでの提案されたプロセスとか、将来へのそういう考え方の希薄さとか、いろんなそういう議論が出されました。そして、町民も一切知らない中での議会の今日であります。どう保存するか、方法を、町民を交えてこれからもしっかり検討して、再度またこのことを議会で議論できるようなことを私は切に願って賛成の討論といたします。